

房総の 文化財

VOL.21

平成12年2月29日

財団法人 千葉県文化財センター

〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809-2

TEL 043-422-8811(代)

FAX 043-422-8850

ISSN 0919-0848
Bōsō no bunkazai



発掘調査速報

農村の原風景・中世の屋敷群



屋敷跡から想像した中世・三直中郷遺跡の景観／画：笹生 衛

三直中郷遺跡は、君津市内を南北に流れる小糸川に面した微高地上にあります。

遺跡の位置する君津市三直は、鎌倉時代から室町時代までは「三直郷」と呼ばれ、鎌倉の武士や大寺院の領地（荘園）となっていた地域でもあります。

君津市三直中郷遺跡

平成10年度の発掘調査によって、7か所の屋敷跡の存在が明らかになりました。屋敷の一つは面積70㎡（約20坪）ほどの掘立柱の母屋を中心に、竈屋（台所）兼納屋（物置小屋）と思われる小さな建物が配置され、さらに井戸が掘られていました。

屋敷の広さは、大小があるようですが、30m四方（約270坪）の広さの屋敷も確認できました。このような屋敷は溝を境とした形で発見され、中世のムラ・三直郷の一部と考えられます。

出土した遺物には、中国製の青磁・白磁・染付、瀬戸焼の碗・皿・播鉢、常滑焼の鉢・甕、素焼の皿、漆器碗などがあり、中には細かな模様を彫り込んだ白磁皿や、青い顔料で「福」の文字を書いた染付碗などの高級品も含まれています。これらの遺物は、在地の有力



柱の跡が整然と並ぶ屋敷跡（南から）

者層の屋敷で使用されたものと思われます。

また、遺物の年代から、屋敷は鎌倉時代（13世紀代）から江戸時代初期（17世紀前半）まで、多少位置を変えながら、ほぼ継続して使われていたことが分かりました。そして、これらの屋敷は長い年月を経て、現在も遺跡の近くにある農家の屋敷へと、受け継がれていったようです。

こう考えると、今回の発掘調査で発見された屋敷跡は、まさに現在の農村の原風景といえるでしょう。



遺物紹介コーナー

親の悲しみと願い・埋甕

酒々井町墨古沢遺跡



家の中心に向かって傾いていることが多い（近年の耕作により、土器の一部が破損していた。この埋甕に穴があいていたかは不明）

縄文時代（主に中期から後期にかけて）の竪穴住居跡の出入り口と思われる辺りから、埋められた土器が見つかることがあります。時には、土器の底もしくは側面に小さな穴があけられていることもあります。

なぜ、出入り口の下に埋められ、土器に穴があけられたのでしょうか。実は、そこには、今も昔も変わらない親の子に対する深い愛情があったようです。

今でも出産は大変なことですが、医学の知識もない当時は、それこそ生きるか死ぬかの一大事だったに違いありません。死産だったり、生まれてまもなく死んでしまったりということが、今では考えられないほど多かったでしょう。そのようなかわいそうな赤ちゃんや胞衣（胎盤）を納めたのが、この「埋甕」だと考えられています。

家の中や家のすぐそばに埋めたり、土器に穴をあけるのは、再びおなかに戻って生まれ変わって欲しいという、わが子に対する親の

願いが込められているのかもしれません。

また民俗例から、土器の中に納めたのは、無事に生まれてきた赤ちゃんの胞衣であり、その土器を出入り口に埋め、家の人が踏んだりまたいだりすればするほど、その子が丈夫に育つという風習があったという説もあります。いずれにせよ、子供に対する愛情の表れであることには違いありません。

なお、墨古沢遺跡の発掘調査は、平成12年度も継続して行われます。



墨古沢遺跡の竪穴住居跡と埋甕

遺跡今昔物語

古代北総地域の中心地・萱田 萱田地区発掘調査

八千代市の南西部、東側に新川を見下ろす台地の上に、「ゆりのき台」の街が広がっています。ここは、住宅・都市整備公団（現・都市基盤整備公団）の萱田特定土地区画整理事業によって生まれた新しい街です。

事業に伴い、昭和52年から平成3年にかけて、権現後遺跡、ヲサル山遺跡、北海道遺跡、井戸向遺跡、坊山遺跡、白幡前遺跡の6遺跡が発掘調査されました。その結果、約3万年前の旧石器時代から奈良・平安時代までの生活跡が見つかりました。

中でも、奈良・平安時代の遺跡からは、総数552軒というたくさんの竪穴住居跡が発見されました。そこからは、和同開珎、三色の釉薬のかかった陶器（三彩小壺）、年号や地名・人名・人の顔などが書かれた墨書土器（「村神郷丈部国依甘魚」ほか）などが出土しました。また、小規模なお寺と思われる建物跡や、粘土を焼いて作られた瓦塔（五重塔）の破片、小さな青銅製の仏像など、仏教に関連した遺構や遺物もたくさん見つかりました。

こうした墨書土器などから、この北総地域が、古代の「下総国印旛郡村神郷」に属した中心地であったことがわかります。

なお、萱田地区の資料は、八千代市歴史民俗資料館で保管・展示されています。



井戸向遺跡出土三彩小壺（実物の約2／3）
撮影：堀越知道

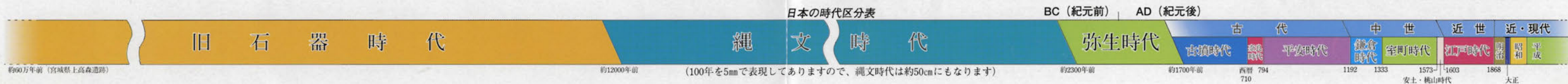


井戸向遺跡出土青銅製小仏像
（ほぼ実物大）



白幡前遺跡出土和同開珎（実物の約2／3）

鉄道も開通し、すっかり街らしくなった「ゆりのき台」（1993年撮影／提供：都市基盤整備公団千葉地域支社）
（掲載出土品／八千代市教育委員会所蔵）



埋文レポートコーナー

“歩きながら、郷土の歴史に触れよう！”

「ウォーク・イン古代」

この企画は、今回で6回目を迎え、昨年10月23日（土）に富津市・君津市を舞台に開催されました。

当日は、約50名の参加者があり、調査中の君津市沖込遺跡の見学と併せて、古墳時代から近世の遺跡を回りました。主な見学場所は、富津市弁天山古墳（国指定史跡）、富津市内裏塚古墳群の三条塚古墳・内裏塚古墳・九条塚古墳・森山塚古墳と飯野陣屋跡、君津市九十九坊廃寺跡でした。

参加者は、例年になく遅い秋の訪れを感じながら、古への夢を膨らませていました。



弁天山古墳の墳頂部で説明を受ける参加者

平成11年度千葉県遺跡調査研究発表会

千葉県文化財法人連絡協議会と千葉市教育委員会とは共催で、1月23日（日）、千葉市文化センターホール及び市民サロンにて、県内の埋蔵文化財発掘調査の研究成果を発表しました。

当日は、県内外の研究者や一般県民など約570名が参加し、研究発表と出土品の展示解説を熱心に聞き入っていました。

当センターは、館山市東田遺跡（弥生～古墳時代）の調査結果を発表し、遺物や写真パネルなどを展示しました。



展示を熱心に見学する参加者

お知らせコーナー

●図書室のご案内

当センターの本部（ふつじょう市）に、埋蔵文化財に関する資料を集めた図書室があります。主な役目は、職員の調査研究に係わる情報や資料を収集して提供することです。現在では、県下の埋蔵文化財情報のセンター的な役割も果たしています。

蔵書内容は、全国の遺跡発掘調査報告書、歴史・考古学関係の図書・雑誌、県内外の埋蔵文化財センター等の年報・紀要、博物館図録などで、約5万8千冊を所蔵しています。

開室は、月曜日から金曜日（祝祭日、当センター休業日を除く）の午前9時から午後5時までで、一般の方も利用できます。

閲覧を希望される方は、下記にお問い合わせください。

●問い合わせ：当センター図書室 ☎043-422-8811(代表)



スタッフ一同、皆さまのご利用をお待ちしています。

●「土器ッと古代“宅配便”」

一見て・さわって歴史体験— スタート！

これは、県内の小学校、中学校、高等学校、養護学校、ろう学校、盲学校、公民館・社会教育施設等を対象に、当センターが保管している土器・石器（旧石器時代～中近世）や写真資料などのセットを提供し、授業や講座に役立てていただきたいという新企画のことです。

セットは、時代別に箱詰めし（約40cm×60cm×30cmの箱で全5箱程度）、活用したい時代に合わせて提供します。

普段、実物にさわる機会が少ない児童・生徒や県民の方々に、じかに触れてもらい、肌で本物の歴史を味わってほしいというのが私たちの願いです。是非、ご利用ください。

●問い合わせ：当センター資料課 ☎043-422-8811(代表)

■表紙について

和鏡「甜瓜双鳥鏡」（千葉市有吉北貝塚の中世土墳墓から出土）
青銅製、面径9.7cm、縁高0.5cm、重量123.8g
撮影：堀越知道

■訂正とお詫び

広報紙20号に誤りがありましたので、訂正お詫びいたします。

【発掘調査速報】

左段（誤）竪穴住居 →（正）竪穴住居。（誤）土器がかぶせられていたうえに →（正）土器がかぶせられていたうえに

【遺跡今昔物語】

（誤）写真の説明「東総用水の工事風景」→（正）「東総用水の工事風景／提供：水資源開発公団東総管理所」

房総の 文化財

VOL.22

平成12年8月31日

財団法人 千葉県文化財センター

〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809-2

TEL 043-422-8811(代)

FAX 043-422-8850

www.chibaken-bunkazai-center.or.jp

ISSN 0919-0848
Bōsō no bunkazai



発掘調査速報

古代の水路と縄文時代の土器塚？ ―印西市西根遺跡―

西根遺跡は、印西市南部を流れる戸神川沿いの低湿地にあります。数年前、たまたま川に遊びに来ていた親子が、川底から縄文土器を拾い、この遺跡の発見につながりました。

平成11年度の調査で、縄文時代の遺物のほかに、古墳時代から中世にかけての水路跡や、堰の跡が見つかりました。水路跡からは、木製の農具（柄振、鋤、杵、田舟など）や墨書



水路跡の調査風景（後方の台地上は船尾白幡遺跡）



形代（木製で、上が「人」、下が「馬」をかたどったと思われる。長さは、両方とも約8cm。奥の板材は、曲物の底板）



鋤（古墳時代のもので、一枚板で作られていた。柄の部分は、くりぬかれており、当時としては珍しい作り方である。長さ、約106cm）

土器が出土しています。

また、祭り（まじない）に使われたと思われる「形代」も出土し、注目を集めています。

水田跡はみつかりませんが、豊富な農具が出土した水路、そこに設けられた堰から、



堰跡（水路の水をせき止める施設で、一本梯子が再利用されていた）

当時の水田耕作を想像させます。

一方、縄文時代の活動の跡として、後期中頃（約3500年前）の多量の土器を寄せ集めてた跡が見つかり、さながら、土器塚のようです。

なお、調査は、平成12年度も継続して行なわれております。



土器塚？（数個から十数個体分の土器がまとまって見つかった）



より、上皿から垂れた油を下皿で受けることができました。当時の人々は細かな工夫をして、高価な菜種油を一滴も無駄にすることはありませんでした。

現代、不夜城となった街灯りとは全く対照的に、暗闇の中のほのかな灯りは、私たちの心を落ち着かせてくれます。



1. ヒョウソク 2. タンコロ形のヒョウソク 3・4. 灯明皿 5. 油徳利 6. ロウソク形のヒョウソク（佐倉市弥勒東台遺跡出土）

遺物紹介コーナー

灯明皿 ―灯りの道具―

江戸時代は、さまざまな燃料を使った灯火具が考案されました。菜種油などの液体油を用いる灯火具では、「灯心・油・油を溜めておく器」を組み合わせ使用していました。



灯心は、「蘭」(別名・トウシンソウ/イグサ科)という植物の根を使用。(灯心提供：県立房総のむら/上皿は現代のかわらけ・下皿は東金市前畑遺跡の出土品を使用)

はじめは、土器の皿を器に使っていましたが、後に、陶器製の専用の灯明皿がつくられるようになりました。また、ヒョウソク・タンコロなどの形（写真右）も考案され、またたく間にその種類が増えていきました。

一方、今までどおり、油の多い松の根を燃やしたり、イワシやニシンの油を菜種油の代わりに使ったりしている家もありました。

また、ロウソク・行灯・燭台・提灯も普及し、都市・農漁村を問わず、江戸時代は、まさに「灯りの文化」の華が開いた時代でした。

左の写真は、灯明皿の使用例です。小型の皿（灯明皿）を上、下に同じ大きさの、切り込みの入った棧を持つ皿（受け皿）を重ねて使用した例です。2つの皿を重ねることに

◎遺跡今昔物語◎

―印旛地域の集落と古墳群― 佐倉第三工業団地発掘調査

佐倉市の南東部に位置する「佐倉第三工業団地」の建設に伴い、昭和50年から昭和60年にかけて発掘調査を行ないました。そして、平成8年までにその成果のすべてを報告書として刊行しました。

発掘調査の結果、旧石器時代から奈良・平安時代までの16の遺跡が見つかりました。また、池向遺跡野中5号墳をはじめとして、大小160もの古墳時代後期ころ（約1500年前）の古墳と、それと同じ時期の集落跡が調査されました。これらの集落の中には、古墳から発見された土器と同じ模様をもつ杯（十又は×模様）が出土した住居跡（タルカ作遺跡）もあり、古墳を造った人々の集落であった可能性があります。

奈良・平安時代の集落は、それらの古墳を避けるように、古墳が造られなかった台地に営まれていました。この集落の中で、六拾部遺跡からは、仏教に関する遺物が見つかりました。また、掘立柱建物跡の中には、集落内の「お堂」と考えられるものがあり、この地域の集落に仏教が伝わっていたことが分かりました。

かつて遺跡のあったこの地は、最先端の技術の企業を集めた工業団地として生まれ変わりましたが、一部、古墳公園として保存され、市民の憩いの場となっています。

なお、出土品等の資料は、当センター本部（四街道市）で保管しています。



野中5号墳
（全長約46m、幅37mの前方後円墳）



出土した玉類



造成工事前の佐倉市岩富・神門・宮本地区（昭和54年撮影・南から撮影：森 昭）



六拾部遺跡出土の仏教関係の出土品（左上から瓦塔の1階部分、仏鉢、香炉の蓋2点、中央：蓋付きの薬壺、左下から「白井寺」と書かれた杯、瓦塔の屋根）



完成した佐倉第三工業団地は、東関東自動車道・佐倉インターチェンジに近く、広さは約100haにも及ぶ（平成8年撮影・南東から提供：佐倉市）

日本の時代区分表

BC（紀元前） | AD（紀元後）

旧石器時代

縄文時代

弥生時代

古代 | 中世 | 近世 | 近・現代
古墳時代 | 奈良時代 | 平安時代 | 鎌倉時代 | 室町時代 | 江戸時代 | 明治 | 昭和 | 平成
約1700年前 | 西暦 794 | 1192 | 1333 | 1573 | 1603 | 1868
飛鳥時代 | 安土・桃山時代 | 大正

約60万年前（宮城県上高森遺跡）

約12000年前

（100年を5mmで表現してありますので、縄文時代は約50cmにもなります）

約2300年前

約1700年前

埋文レポートコーナー

●「土器ッと古代“宅配便”」^{ドキ}実施中 ー見て・さわって歴史体験ー

学校や公民館などの教育施設に、当センターが発掘調査した出土品を提供し、授業等に活用していただく企画を、平成12年3月からスタートさせ、好評を得ています。

平成12年6月現在で、小中高・盲学校合わせて13校の利用がありました。

児童・生徒及び先生から「本物の土器や石器にさわって、ゾクッとした」



「この石器で、木の実をすりつぶしたんだね」(県立千葉盲学校)

(市川市立宮久保小学校6年児童)、「矢じりは、私にも作れますか」(市原市立八幡中学校1年生徒)、「黒曜石のナイフ(模造品)での紙切りに人気がありました。先人の工夫・知恵が印象深く心に刻まれたようです」(市川市立富美浜小学校教諭)、「視力障害者にと

って、実物にさわれるのは本当にありがたいことですね」(県立千葉盲学校教頭)などの感想が寄せられました。

平成14年度から、学校現場では、「総合的な学習」が完全実施され、今後ますます「体験的な学習」が高まることと思われます。

それに伴い、「土器ッ^{ドキ}と古代“宅配便”」の申請もさらに増加することが予想されます。



「スゴイ！本物の土器だ」
(市川市立妙典小学校)



「もうすこしで火が起ころぞ！」
(習志野市立谷津小学校)

■申込み・問い合わせ：
当センター資料課 ☎043-422-8811(代)

●千葉市の小学生、原始・古代を体験

千葉市立扇田小学校6年生47名は、4月26日、学校の近くにある当センター中央調査事務所を訪れ、土器作りの体験と黒曜石を使っての魚のさばき方の実演を見学しました。中でも、三浦所長による、「スズキの三枚下ろし」に目が釘付けでした。



「スゴイ切れ味だね！」

後日、「今までで、一番心に残ったのは、石器の実演でした。貝がらを使ったうろこはがしもすごかったです。大人になったら、こういう仕事をしてみたいと思いました」(男子児童)などの感想文が届けられました。

●千葉県総合教育センター長期研修生レポート

当センターは、平成10年度から学校の先生方を対象とした長期研修生を受け入れ、埋蔵文化財に係わる研修を実施しています。

今回は、昨年度の研修生の一人・藤田大安先生(現・市原市立千種中学校教諭)からのレポートです。

「文化財センターでは、専門知識・技術の習得のほか、県内の史跡見学、発掘現場での実習などの研修を受けました。研修を通して、見識を深めることができたのはもちろんのこと、いろいろな人と知り合うことができ、とても有意義な1年間でした」。



マイ土器の完成(県立房総風土記の丘にて研修)

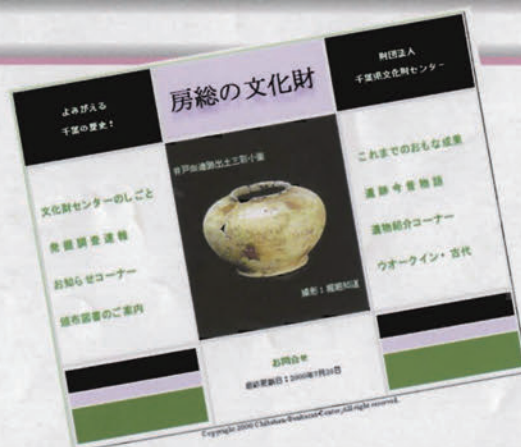
お知らせコーナー

●お待たせしました！ホームページ開設

5月1日にホームページが産声を上げました。主な内容は、「これまでのおもな成果」(当センターが調査した、代表的な遺跡の紹介)、「発掘調査速報」(現在調査中の遺跡のうち、スポットを当てたい遺跡)、「お知らせコーナー」(遺跡見学会や出土品展示会などのご案内)などです。

内容は、順次、更新していく予定です。みなさんのアクセスをお待ちしています！

www.chibaken-bunkazai-center.or.jp
(ホームページ・アドレス)



■表紙について
左奥：石棺(縄文時代/柏市小山台遺跡出土/長さ約17.5cm)
中央：つまみの付いた土器(縄文時代/流山市大久保遺跡出土/長さ約15.5cm)
撮影：堀越知道

縄文時代の「落とし穴」の話

落とし穴は、主にシカやイノシシなどを獲るためにつくられ、東日本を中心に発見されています。獲物の行動に合わせ、台地の上や斜面などにしかけられていました。

千葉県では、成田空港近隣の遺跡群をはじめ、主に県北部の遺跡で発見されていますが、規則的に配列された例は少ないようです。これには、「けもの道」などにしかける「わな罠」が中心に行われていたためではないか、という説もあります。

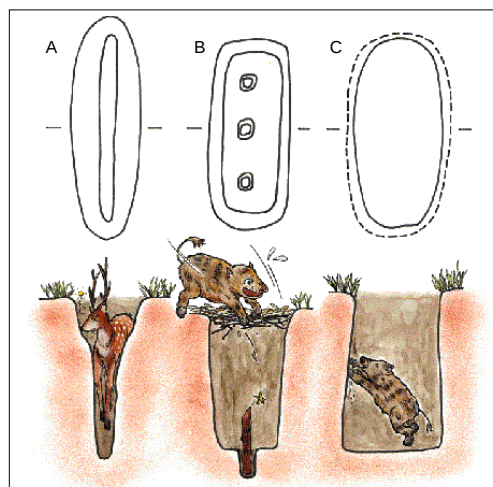
ところで、この落とし穴、発掘作業を行う補助員さんにとっても、なかなかテゴワイ存在なのです。底に近づくにつれて



「センセエ！まだ掘るんですかあ～・・・」

身動きはできなくなるわ、服は土まみれになるわ、夏はサウナ状態になるわで、大変だからです。

補助員さんの話によると、「下から空を見上げると、獲物の気持ちがよく分かる！」そうです。



*考古学用語では、一般的に「陥穴」を用いています。
*落とし穴の平面形は、「楕円形」「長楕円形・細い溝形」「長方形」などがあります。深さは、約0.5mから3mまで様々です。
*穴の底に尖った杭を埋め込み、獲物に傷を負わせたり、身動きができなくする「逆茂木」式の落とし穴もありました(イラストB)。
*北海道や東北地方では、規則的に配列された例が多く、「追い込み罠」が盛んだったようです。イラスト/石井歌織

縄文レポートコーナー

●母校の下に遺跡があった！

千葉県立木更津高等学校の生徒と教職員が、学校の敷地にある四房遺跡の発掘調査を7月19日に見学しました。



弥生時代のムラ跡や中世の溝跡を見学した参加者は、当センター職員の説明を受け、ごく身近な所にある郷土の歴史を学習していました。

●親子で“夏休み発掘体験ツアー”



当センターが調査中の君津市鹿島台遺跡において、JH日本道路公団東京建設局主催の発掘体験ツアーが、8月22日・24日に行われ、都内から約80名の参加がありました。

当日、アクアラインを大型バスで渡って参加した小・中学生は、竪穴住居を体験発掘し、夏休み最後のよい思い出作りができたようです。

お知らせコーナー

●地中からのメッセージ

- 第3回最新出土考古資料巡回展 - 開催中！

千葉県文化財法人連絡協議会ほか主催の巡回展は、今年で3回目を迎え、県立総南博物館を皮切りに県内の県立博物館を巡回しています。主な展示物は、今春、新聞紙上ににぎわせた君津市三直貝塚をはじめ、県内各地の最新の出土資料です。

最後の展示会場は県立中央博物館で、三直貝塚を中心とした講演会と調査担当者による調査発表も予定していますので、是非ご来場下さい。

展示期間：平成12年12月16日(土)～平成13年1月14日(日)(入館料無料)
*毎週月曜日と年末年始は休館です。

講演会及び発表日時と会場：平成12年12月23日(土)午後1:30～3:30/県立中央博物館講堂

発表演題：「君津市三直貝塚の調査」

講師：当センター職員 吉野健一

時間：午後1:35～2:00

講演演題：「縄文の大土木工事」

講師：市立市川考古博物館長 堀越正行氏

時間：午後2:00～3:30

□参加費：無料/申込み先：当センター資料部資料課
043-422-8811(代表)

●平成12年度千葉県遺跡調査研究発表会

内容：県内の主な発掘調査の研究成果を発表し、出土品を展示します。

主催：千葉県文化財法人連絡協議会・千葉市教育委員会(共催)
日時：平成13年1月21日(日)

午前10:00～午後3:30

会場：千葉市文化センターのホール及び市民サロン
【千葉中央ツインビル2号館3階・5階/千葉市中央区中央2-5-1】

対象者：県民ほか関係者

参加費：無料(当日受付)

問合わせ：当センター調査部企画課 043-422-8811(代表)



出土品を見学する地元の小学生
(写真提供/県立大根博物館)

■表紙について
君津市沖込遺跡1号墳出土玉類/古墳時代前期 撮影：堀越知道

房総の文化財

VOL.23

平成12年11月30日

財団法人 千葉県文化財センター

〒284-0003 千葉県君津市鹿島809-2

TEL 043-422-8811(代)

FAX 043-422-8850

www.chiba-bunkazai-center.or.jp

ISSN 0919-8844

0966 no bunkazai



発掘調査速報

よこあな
当時の形を残した横穴

おおあみしらさとまちみやざく
- 大網白里町宮谷横穴群 -



調査区遠景（左から、4号・3号・2号横穴）

宮谷横穴群は、九十九里平野が一望できる標高50m前後の金谷郷丘陵の南斜面にあります。横穴群は7基で構成されており、平成12年5月から7月にかけて、その内の4基を発掘調査しました。

横穴とは、丘陵の斜面を利用して横に穴を掘ったお墓のことで、古墳時代の終わり頃（約1400年前）に集中して造られるようになりました。

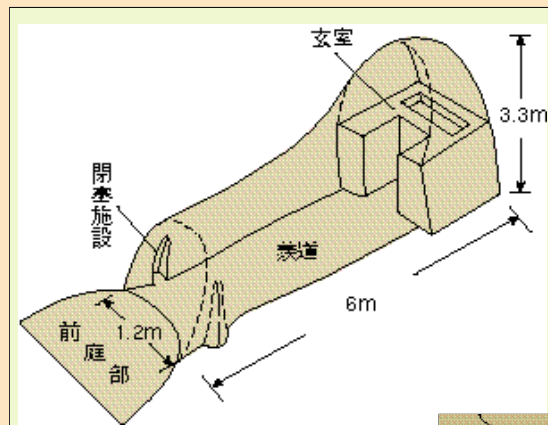
見つかった横穴の構造は、入り口の外の「前庭部」（墓前域）、玄室への通路である「羨道」、遺体を安置した「玄室」から成り立っていました。

普通、入り口から羨道にかけての天井部分は崩れてしまうことが多いのですが、今回調査した3号・4号横穴では、ほぼ完全なアーチ形に残っており、古墳時代当時の状態がよく分かりました。

その結果、玄室と羨道の床面の段差が大きい横穴（高壇式）の形態が明らかになりました。また、入り口部分の側壁には、縦に掘り込まれた「ほぞ穴」があり、板などをはめ込んだ閉塞施設があったようです。さらに、横穴を掘った道具の痕もはっきり残っており、横穴の各部の機能や造り方を考える上で、大きな成果を上げることができました。



羨道から玄室を見る



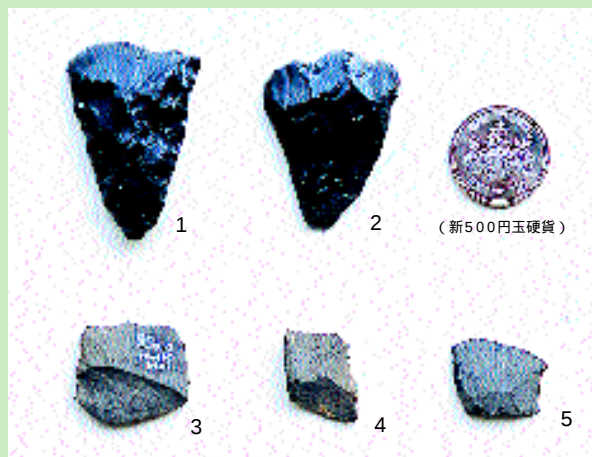
宮谷横穴の構造模式図



遺物紹介コーナー

なぞの多い石器 - 台形様石器 -

台形様石器は、今から約3万年から2万5千年前にかけて、日本中で作られた旧石器時代の石器です。主に台形のような形をしているので、こう呼ばれるようになりました



（新500円玉硬貨）

が、実際の形は様々です。大きさは3cmから5cmほどの、小型の石器です。

台形様石器の一例として、まず市原市草刈六之台遺跡出土の資料を紹介します（写真1・2）。神津島から持ち込まれた黒曜石の石片を材料にして、逆三角形に作られています。上辺は鋭い刃で、それ以外の部位は、表裏を薄く削ぐように、丹念に仕上げられています。

2つ目の例（写真3・4・5）は、千葉市鎌取遺跡出土の資料です。安山岩の石片を用い、鋭い辺を上辺にして、不要な部分を断ち切るような加工によって、長方形に作られています。

このように、台形様石器には様々な形があ

り、木の柄を着けて、突く・切る・削るなどの道具として使われたと思われますが、まだなぞの多い石器です。

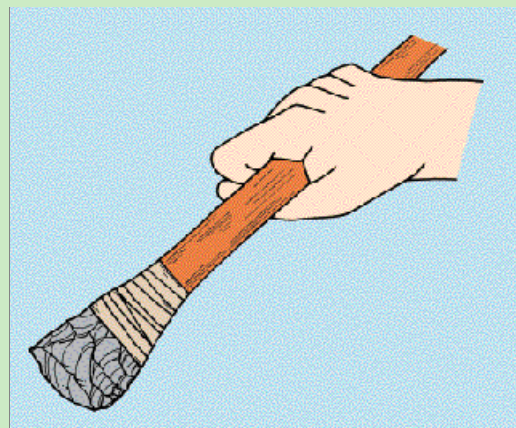
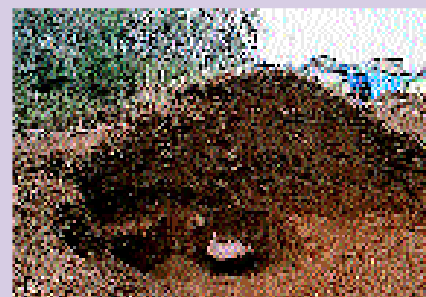


写真1・2の石器に柄を着けたようす（イメージ画）

遺跡今昔物語

消えゆく中世の風景

頭上を通り過ぎていくモノレール。千葉市では、もうすっかり見慣れた風景となりました。この千葉都市モノレールの建設に伴って、昭和57年から昭和60年にかけて6遺跡の発掘調査が行われました。調査が行われた遺跡の一つ廿五里城跡では、塚の下から死者を葬った常滑産の大甕、土壇墓、火葬骨を納めた骨蔵器、板碑など中世の墓地に関連した遺構や遺物が発見されました。このあたりは原城跡・高品城跡・源館跡・殿台城跡などの城跡が点在しており、中世の遺跡が密集している地域です。

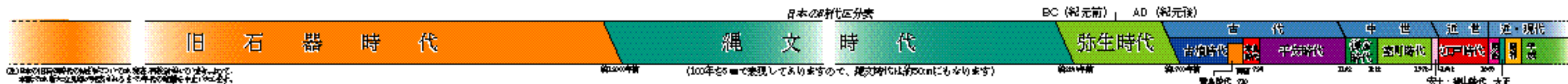


千葉都市モノレール発掘調査

廿五里城跡からは、お経の一部分を書いた墨書土器（写真）が出土しています。浄土教の重要なお経の一つ『無量寿経』の阿弥陀四十八願のうちの第十八願が書かれており、県内では初めての出土例です。これは、「全ての人々が熱心に南無阿弥陀仏を唱えれば、極楽浄土に行くことができるであろう」という意味を表しています。平安時代後期以降、地方にも浄土教が広まったことを、この墨書土器が語っています。

モノレールの開通以後、廿五里城跡周辺の開発が進み、かつての面影を残している場所が急速に消えつつあるのは、やや残念な気がします。

廿五里城跡の塚（15世紀の常滑産の大甕が発見された。その中には、熟年男性が葬られていた。塚の基底面に亡き者の罪を少なくするための砂がまかれた跡があり、「土砂加持」という法要が行われたらしい）



レプリカ（複製品）の話【1】

博物館などで、実物そっくりに造られたレプリカが展示されていることがあります。なぜ、実物があるのにわざわざレプリカを展示するのでしょうか。

実物資料は、収蔵している博物館などで展示するだけでなく、より多くの人々に見てもらうために、ほかの博物館に貸し出したり、研究資

料として使われたりします。

しかし、実物のなかには、輸送や展示に耐えられないほど壊れやすい物や、環境により変質してしまう物があります。そこで、実物は収蔵庫で保管し、代わりに「影武者」として、レプリカに活躍してもらうのです。

レプリカは、専門の技術者が実物



左：レプリカ / 右：実物資料（市原市川焼台遺跡出土2号小銅鐸）

から型をとって造る特別な二次的資料であり、単なる実物大の模型ではありません。

埋文レポートコーナー

●講演会：「縄文の大土木工事」

第3回最新出土考古資料巡回展のフィナーレを飾る

好評を博した巡回展（千葉県文化財法人連絡協議会ほか主催）に関連した講演会が昨年の12月23日に、県立中央博物館で行われました。当日、三直貝塚の調査結果を基に、「縄文の大土木工事」と題した講演会（講師：市立市川考古博物館長堀越正行氏）と、当センターの吉野健一研究員による調査発表が実施されました。

会場を埋め尽くした聴講者は、縄文の土木工事や環状盛土遺構の説明を熱心に聞き入っていました。



縄文時代の土木工事について講演する堀越氏

●三直貝塚遺跡見学会 Part 2

今回の特集で紹介した三直貝塚の遺跡見学会が、昨年の11月25日に行われ、多くの見学者が訪れました。今回は、昨年3月に続いて2回目です。当日は、調査中の遺跡の見学と共に出土品の公開が、近くの君津市民文化ホールで行われました。

見学者からは、「市内でこのような素晴らしい遺跡が発見されてうれしい」「一度でいいから自分も発掘してみたい」などの感想が寄せられました。



君津市民文化ホールで出土品の見学



大型住居跡（右端は、出入り口部分）の説明を受ける見学者

●千葉県生涯学習フェスティバル - 原始・古代フェア -

夢ふくらむ・古代の衣装を試着体験

千葉県ほか主催のフェスティバルが、昨年の11月25日・26日の両日、幕張メッセ国際展示場で行われました。千葉県文化財法人連絡協議会は、勾玉作り、火起こし、古代衣装の試着、ペーパークラフトなどの体験コーナーを設け、親子連れなどにぎわいました。



チョッピリ緊張、古墳時代の衣装を試着（衣装協力／芝山町観光協会、芝山町立芝山古墳・はにわ博物館）

■表紙写真／錦繡の三直貝塚（手前：大型住居跡・南西から）

お知らせコーナー

●展示室の紹介

当センター本部（四街道市鹿渡）の2階に、当センターが発掘調査した出土品の一部が展示されています。時代は、旧石器時代から中近世までです。一般の方も見学できますので、是非おいで下さい。

- 開室日／月曜日から金曜日（祝祭日、当センターの休業日は除く）
- 開室時間／午前9時30分～午後4時30分
- 入室料／無料

*当センター作成のビデオ・ライブラリーも視聴できます。

- 問合わせ／資料部資料課 TEL 043-422-8811（代表）

●「土器ッと古代“宅配便”」実施中！

実物の出土品等のセットを、県内の学校や公民館等の社会教育施設に提供し、有効に活用してもらう企画です。セットの搬出入は、当センターが行います。また、職員が出張して授業を行うこともあります。

今年度は、17校への提供を行い（2月現在）社会科や総合的な学習等で活用されました。お申込みお問合せは、下記まで。

- 資料部資料課 TEL 043-422-8811（代表）



房総の文化財

VOL.24

平成13年2月28日

財団法人 千葉県文化財センター

〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809-2

TEL 043-422-8811（代）

FAX 043-422-8850

www.chibaken-bunkazai-center.or.jp

ISSN 0919-0848
Bōsō no bunkazai



スペシャル
特集

君津市

み の う
三直貝塚

かんじょうもりつち い こう
環状盛土遺構と大型住居跡

クローズアップNOW

君津市の丘陵において、縄文時代中期後半から晩期前半（約4500年～3000年前）にかけての集落跡が発見され、話題を呼んでいます。館山自動車（木更津～富津区間）の建設に伴い、平成11年7月から発掘調査を開始し、環状盛土遺構、大型住居跡、貝層などが発見されました。なかでも、環状盛土遺構は縄文時代の土木工事跡として注目を集めており、今回、特集を組みました。

三直貝塚は、房総丘陵の標高約100mの山中に位置し、畑沢川と小系川上流域に当たります。

発掘調査の結果、丘陵の平坦部に、環状盛土遺構が築かれていることが分かりました。この遺構は、近年注目を集めている縄文時代の土木工事跡と考えられています。規模は、外径約140m、盛土幅約10～20m、最大高さ約1.8mで、縄文時代後期中ごろから晩期前半に営まれていたようです。

盛土の中からは、住居跡が数軒発見されました。なかでも、一辺が約10mもある大型住居跡の発見は、話題を呼びました（表紙写真）。この住居跡は、他の住居跡と比べて掘り込みが大変深く、建て替えも最低4回は行われているようです。住居跡からは、石棒、耳飾り、異形台付土器といった、まじないや祭祀に関連する遺物が出土しました。

このように、盛土の中から、当時の住居跡が発見される例は極めて珍しく、今後の研究成果が期待されます。

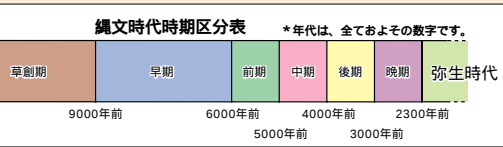
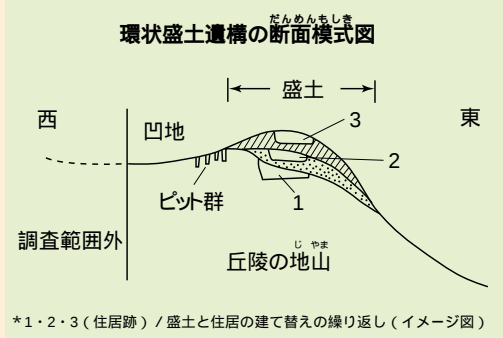
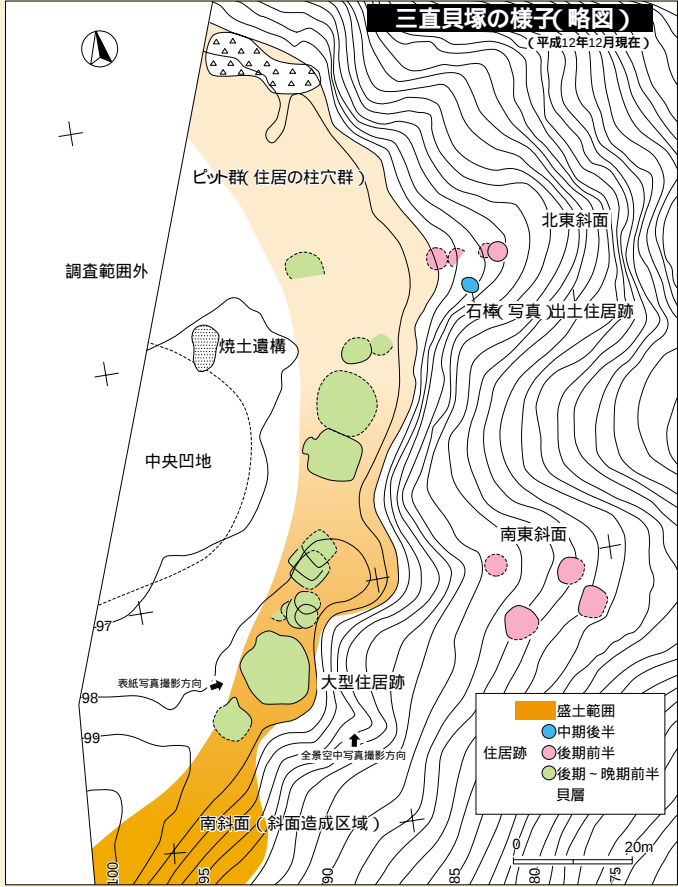
環状の盛土に囲まれた中央部分は、断面模式図のようになくばんでいます。ここからは、遺物はほとんど出土せず、住居跡などの遺構もありませんでした。

以上のことから、環状盛土遺構は、自然地形を削ったり土を盛り上げたりした、当時の土木工事跡であることが、少しずつ分かりかけています。

その他、縄文時代後期後半から晩期前半にかけての住居跡多数（ビット群を含む）斜面を造成した跡、貝層2か所（1か所は調査範囲外）などが発見されました。主な出土品は、土器・石器をはじめ、耳飾り、ヒスイ製の垂飾品（首飾りなど）、中空土偶、独鈷石、注口土器、石棒などです。



第1回遺跡見学会で盛土遺構を見学
（約千人もの見学者が訪れた。平成12年3月）



水まきも重要な仕事です
房州名産のボッチ笠をかぶる補助員さん
日よけ用グッズを背負いながら、平板実測

空から見た 三直貝塚

（南上空から／平成12年8月撮影）



三直貝塚を語る

平成11年7月に開始した発掘調査も、いよいよ終盤を迎えました。そこで、調査に主に携わった職員に、三直貝塚の内容と感想を熱く語ってもらいました。



紅葉を背にして作業する補助員さん

Q 最初に環状盛土遺構を見たときの印象はいかがでしたか。

吉野 初めて土の盛り上がりを見たときは、古墳かと思いました。確認トレンチ（昔の生活の跡を確認する溝状の穴）を入れてみたところ、縄文時代後期の土器が多量に出土したので、縄文時代の遺構であることが分かりました。

小林 現場の地面に土器片が落ちておらず、丘陵の平坦部縁辺に高まりが見られたので、中世の遺跡かな、と思ったくらいです。

Q 県内外の盛土遺構の確認例を教えてください。

小林 北海道石倉貝塚、青森県三内丸山遺跡、秋田県狐盗遺跡、栃木県寺野東遺跡などがあげられます。県内では、環状の貝塚に盛土遺構に近い要素があるのでは、と考えています。

吉野 それから、県内では、印旛沼周辺の縄文時代後・晩期の遺跡で、いわゆる「土器塚」を伴う集落遺跡とも似ている部分があるのでは、と考えられています。

Q 今回の調査では、環状盛土遺構と大型住居跡に話題が集中していますが「貝塚（貝層）」にもふれてみたいのですが。

吉野 遺跡名に「貝塚」とあるので、千葉市加曽利貝塚や東京都中里貝塚のような大規模な貝塚を連想しがちですが、ここで確認されたのは、小規模な貝層が2か所だけです。時期は、縄文時代後期中ごろに限定されます。

小林 貝の種類は、ハマグリ、オキアサリ、アサリ、



一軒の住居跡から石棒が7本もまとめて出土したのは、大変珍しい

イボキサゴなどの海の砂底に棲んでいるものと、ツメタガイ、サルボウなどの海の泥底に棲むものとに分けられます。動物や魚の骨は比較的少なく、シカ、イノシシ、マダイ、クロダイ、フグの仲間などが出土しています。中でもフグの仲間の骨が多いのがこの特徴です。

Q 調査を振り返っての感想はいかがですか。

吉野 どうやって調査を進めたらよいか、悩みの連続でした。

特に、ここは、遺構と盛土の関係が複雑な上に、ローム土（オレンジ色の火山灰土）を掘り込んで造られた大型住居跡が、ローム土によって人為的に埋められていたので、本来の住居跡の形がはっきりするまで手間取りました。

小林 大型住居跡の規模が明らかになりつつあるのはうれしいですね。それと、縄文中期末の住居跡1軒から石棒が7点も出土した時は、感動しました（写真）。補助員さんの中には、石棒が出土すると大いに盛り上がる人がいて、楽しかったです。

Q 最後に一言お願いします。

小林 三直貝塚の集落が営まれた時期は、大きく2期に分けられそうなので、いずれ中期から晩期までの集落の変遷を追ってみたいですね。

吉野 調査を始めたころは、休憩所はなく、現場まで急な道なき道を歩いたのが懐かしい思い出です。

ある日、補助員さんが「なんか変なモノ出ました!？」と言って知らせてくれた「中空土偶」（写真）の出土状況が、今後夢に出そうです。



祭祀などに使われたと思われる出土品
（1.注口土器、 2.石棒、 3.独鈷石、 4異形台付土器、 5.耳飾り、 6.ヒスイ製の垂飾品、 7.注口付土器、 8.中空土偶）



貝層の調査。
中央下は、イノシシの下顎の骨

房総の 文化財

VOL.25

平成13年8月31日

財団法人 千葉県文化財センター

〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809-2

TEL 043-422-8811(代)

FAX 043-422-8850

www.chibaken-bunkazai-center.or.jp

ISSN 0919-0848
Bōsō no bunkazai



中世の土地造成—酒々井町墨古沢遺跡—

墨古沢遺跡は、東関東自動車道「酒々井パーキング・エリア下り線」の西側に位置しています＝表紙写真＝。平成11年7月から発掘調査が開始され、縄文時代後半（約5,000～2,300年前）から中世までの生活の跡が発見されました。なかでも、中世に行われた台地平坦部の大規模な土地造成は、目を見張るものがあります。

この造成部分は、溝で何力所かに区切られ、その中

に大小の建物跡があり、約60基の井戸がいたる所に掘られていました。また、南側の区域では、中世のお墓と地下式墳（地下室状の大きな穴）約40基もまとまって発見されました。

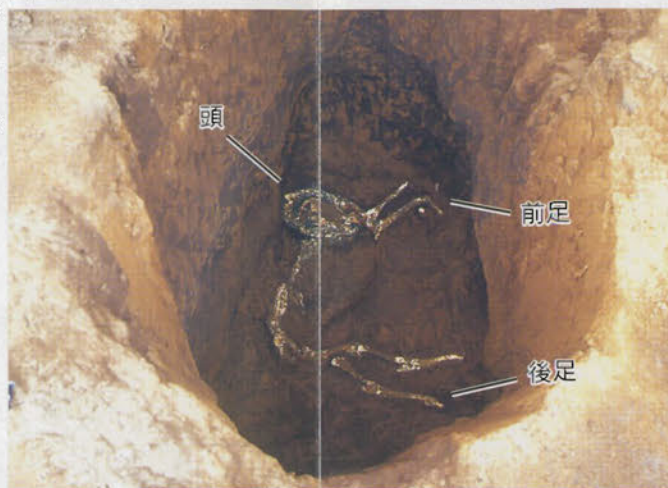
このような建物や施設が使われていた時期は、出土した陶磁器などの遺物から判断すると、15世紀の半ばから16世紀の終わり頃と考えられます。

今回調査した範囲は、南北約300m、東西約80mの範囲（「東京ドーム」の約半分の広さ）ですが、中世の遺跡範囲は、さらに調査地区の外側にも広がる広大なものであったと推定できます。

発掘調査は、まもなく終了しますが、今後、整理作業の中でまた新たな発見があるかもしれません。



井戸跡（中央のベルトは、井戸の埋まり方を観察するためのもの。断面は、漏斗形）



大きな穴の中に葬られていた、馬と思われる骨

遺物紹介コーナー

大きくて不思議な“土偶”
—君津市三直貝塚出土—

縄文時代の遺跡を発掘していると、土製の人形のようなものが出土することがあります。考古学では、それらを「土偶」と呼んでいますが、その形と意味は様々ではありません。この土偶、一般的に女性を表したものが多く、完全な形で発見されることは非常にまれです。

今回紹介する土偶＝写真＝は、平成11年に君津市三直貝塚（本紙24号参照）で見つかったものです。顔の特徴から「ミズク土偶」と呼ばれており、縄文時代後期から晩期にかけて（約4,000～2,300年前）の関東地方ではそれほど珍しいものではありません。

ところが、この土偶の中は空洞（中空）になっており、東北地方に多く見られる作りなのです。さらに、完全な形を推定すると30cm以上はあったと考えられ、現時点で関東地方最大級の中空ミズク土偶になると考えられます。

このような「大型で中空のミズク土偶」の出土例は、全国的に見ても今のところでも少なく、大変貴重な発見です。

また、この土偶の表面がボロボロにもろくなっていたことから、当時何らかの理由で激しく火に包まれたことが想像できます。

さて、この土偶には、当時の人のどのような想いが込められていたのでしょうか。

* 我孫子市下ヶ戸宮前遺跡と埼玉県赤城遺跡から同類の土偶が出土しています。



「大型中空ミズク土偶」

姿を現した戦国時代の城・小林城跡

印西市の北東部、利根川を見下ろす北総台地の先端に小林城跡があります。県道印西印旛線が通ることになったため、工事に先立って、平成3年6月から平成4年3月まで発掘調査が行われました。

小林城跡は、戦国時代の終わり頃（約400年前）にこのあたりを支配していた千葉氏の一族・原氏に関係のある城ではないかと考えられています。周辺の台地上には竹袋城跡、笠神城跡、中根砦跡などの同時期の城跡があります。この地は、利根川の水運を利用しやすい場所であり、下総国（今の千葉県北部と茨城県の一部）と常陸国（今の茨城県）の境にあたる重要な拠点だったのでしょう。

発掘調査で、土塁や空堀、門の跡、主郭（城の中心部）が見つかり、城の様子がわかりました。そこからは、中世の土器や陶磁器、石製品などのたくさんの遺物が出土しました。このことにより、15世紀の半ばに造られ、16世紀の終わり頃に使われなくなって破壊されたのではないかと、ということがわかってきました。

また、中世の遺物のほかに、縄文時代の土器・石器、古墳時代の埴輪・石棺の一部なども出土しており、この地が縄文時代から利用されていたことも明らかになりました。



▲現在の小林城跡（南東から）

▼小林城跡と周辺の様子
（2001年撮影/京葉測量株式会社）



▲空から見た小林城跡付近（1967年撮影）



出土した中世の土器や陶磁器

日本の時代区分表

旧石器時代

縄文時代

弥生時代

古代 中世 近世 近・現代
古墳時代 平安時代 鎌倉時代 室町時代 江戸時代 明治 昭和 平成
約1700年前 飛鳥時代 西暦 710 792 奈良時代 1192 1333 1573 1603 1868 安土・桃山時代 大正

（注）日本の旧石器時代の始まりについては、現在、再検討されています。よって、本紙では、新たな見解が発表されるまで、年代の記載を中止いたします。

約12000年前（100年を5mmで表現すると、縄文時代は約50cmになります）

約2300年前



コラム

レプリカ（複製品）の話【2】

前は、レプリカとは何かのお話をしました。今回は、レプリカの作り方の一例を説明したいと思います。

《作り方の手順》

1 型取り

出土品をいためないように、箔（金属の薄い膜）を出土品に密着させます。

次に、はじめは液状で、時間がたつとゴム状に固まるシリコーン・ゴムを使って出土品から型をとります。これは、歯科医院で歯型をとるのと同じ方法です。

2 成形

1でできた型の中に合成樹脂を流し込んで固めると、出土品と全く同じ形のものが出来上がります。

3 色つけ（仕上げ）

出土品をよく観察しながら、2でできたものに実物そっくりの色をつけると完成です。

以上が作り方の手順です。何となく、たい焼きの作り方に似ていますね。

今後、博物館でレプリカに出会ったら、この話を思い出してください。

シリコーン・ゴムの型を開けたところ



合成樹脂でできた小銅鐸（色つけ前）

シリコーン・ゴムの型



お知らせコーナー

「出土遺物巡回展」開催中

—房総発掘ものがたり—

当センターが発掘調査した遺跡の中から、注目されている遺跡を選び、出土品を巡回展示しています。

会場は、以下のとおりです。

- 県立関宿城博物館（終了）
- 県立房総風土記の丘（8/25～9/24）
- 県立上総博物館（9/29～10/21）
- 県立安房博物館（10/27～11/18）
- 県立大利根博物館（11/23～12/16）

皆さまのご来場をお待ちしています。

主催：（財）千葉県文化財センター、上記開催博物館

後援：千葉県教育委員会

入場料：無料

問い合わせ：当センター資料部資料課

Tel 043-422-8811（代表）



房総発掘ものがたり



埋文レポートコーナー

「香港テレビ（RTHK）」の取材に協力！

香港返還を記念するテレビ番組の取材のため、香港中文大学の鄧聰博士とカメラマンの一行が、当センターで調査中の君津市鹿島台遺跡を5月22日に訪れました。

現場で職員の説明を受けながら、実際に発掘にも参加し、組織的な調査を行っている日本の発掘技術を、丹念に取材していただきました。



左から3番目が鄧博士、2番目が黄助手。1番左は、現場の説明をする南部調査事務所の白井久美子副所長。

「土器ツと古代“宅配便”」実施中

当センターが発掘調査した出土品をセットにして、県内の学校や公民館等の社会教育施設に提供し、有効に活用してもらう企画です。

今年度も、4月・5月と多くの申請があり、「本物の土器にさわって、これを作った古代の人と何千年もたつてからふれあえて、とても不思議な感じがしました」（6年女子）、「子供たちのこれからの人生の中で、この感動がどのように展開していくか、楽しみです」（6年担任）、「子供たちが、肌で触れて学習できるなんて素晴らしいことですね」（保護者）＝以上、本埜村立第二小学校＝などの感想が寄せられました。

お申込みお問合わせは、下記までお願いします。なお、9月から11月にかけて、希望が集中することが予想されますので、早めの予約をお勧めします。

●資料部資料課

Tel 043-422-8811（代表）



本埜村立第二小学校へ出前授業



四街道市立千代田公民館で説明会（7/31、8/30）

■表紙写真（墨古沢遺跡）の説明

